

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175700267		
法人名	株式会社サン・トラベル		
事業所名	グループホームひので		
所在地	埼玉県蓮田市黒浜4905-16		
自己評価作成日	平成28年5月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_pref_topjiyosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9		
訪問調査日	平成28年6月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、緑地の多い自然環境に恵まれた中に位置し、開設13年目になる2ユニットのグループホームです。近くに菜園があり、敷地内の庭にも、木や花、野菜が栽培され、利用者の目を楽しませています。管理者は以前から地元に住み、自然な形で地域と交流しています。看護師も3名おり、きめ細かい健康管理がされています。職員の意見を取り入れ、全体の協力体制が定着して和が保たれており、利用者にとっても家族同様の関係づくりがされています。家庭的な温かい雰囲気の中で、お互いに支え合って穏やかに過ごしている様子が伺えるホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●表面上ではなく心からの支援により利用者の信頼を得るよう取り組んでいる。経験豊富な職員による温かな支援がホームにやすらぎを与えている。
 ●日々の経過観察・利用者の健康状態は細かに記録されており、時にグラフ化するなど配慮がなされている。また食事や水分摂取についても工夫した取り組みがなされており、利用者の健康維持にあっている。
 ●重度化する利用者への対応と職員への負担軽減への配慮から、機械浴の導入および手すりの整備等浴室の改築がなされている。双方を大事にしながら改善を進めるホームの考え方がよく表れている取り組みの一つである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回のミーティングや日々のケアの中で、折に触れ確認し合い、理念の実現に向けて取り組んでいる。	利用者と職員とが表面上だけでなく心から信頼しあえる関係性の構築を目指している。利用者の意思を大事にし、自然体での支援となるよう職員の指導に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1日2～3回散歩に出かけた際、挨拶を交わしたり、下校時の子供たちの安全の見守りに協力している。地域の活動は無いが、ゲートボール場で応援したり、ホームの行事に地域の人達を招待したりしている。	畑でとれた野菜の御裾分けをしたり、散歩の際に挨拶をしたりと日常的な交流がなされている。ホームや入居者に対して理解してもらえるよう地域の意見を受け止めながら運営に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事、日々の散歩の際の交流等を行い地域の理解、支援を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に2～3回程度、利用者のご家族、市の担当職員、地域の民生委員の方等と開催している。サービスの取り組み状況の報告、話し合い意見の交換を行い、サービスの向上に活かしている。	そば打ち・芋煮会等の行事にあわせて開催をするなど工夫をしながら開催に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題が浮上した時には常に相談をしている。生活保護受給の利用者もいることから、市の担当者も毎月来訪され、連携を密にとりながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市の窓口には申請等の際に出向くなど顔を合わせ、連絡相談を行っている。地域包括支援センターからも入居の相談を受けるなど関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は遅番が帰宅する夜の8時頃まで鍵をかけずに自由な暮らしを支えるようにしている。職員も当たり前のこととして受け止め、利用者の様子を見ながら安全に過ごせるように対応している。	日中は玄関を施錠せず、自由に生活できる環境を整えている。利用者の立場にたった支援となるよう管理職からの指導がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフミーティングの際の話し合いで利用者対応についての再確認や外部研修への参加等で学び、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や市役所、グループホーム協議会等の情報にて学び、必要性について話しをするように心がけ、活用出来るように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は、利用者や家族に十分に説明を行い理解・納得をいただくように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見、要望は、運営推進会議やホームの行事の際に、来て頂いた市の担当職員、地域の民生委員にも聞いていただき、運営に反映させている。	家族の要望については聴取に努めている。外出や買い物への要望についても把握がなされており、前向きに検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングの際の職員の意見、提案を聞き、反映させている。	月に1回、両フロア合同によるミーティングが開催されている。利用者の変化や業務の反省などがなされており、支援に活かせるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との交流を図り、管理者、職員の状況を把握、職場環境、条件の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示したり、参加費をホームで負担したり、勤務扱いとして代わる代わる参加できるように努力している、資格取得希望の支援にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くの特別養護老人ホームや老人保健施設と交流し、情報交換をしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや希望を良く聞き、本人の不安を取り除き安心して生活できる関係をつくるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや希望を良く聞き、家族の不安を解消できるような関係をつくるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思い、希望を聞き、必要としている支援を見極め、本人に最も必要な支援を薦める対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は、会話を持ちながら、和やかで家庭にいるような雰囲気をと心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との会話を持ち、家族の思いや希望を大切にしながら、利用者を支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のこれまでの馴染みの人の面会、希望による馴染みの場所への外出は可能な限り支援している。	本評価に伴う家族アンケートでは、面会時にホームが温かく迎え入れてくれる旨の意見があった。家族が訪問しやすいよう事業所全体で努めている。	家族の面会回数減少や関係希薄化を認識・危惧している。今後も行事や運営推進会議への招待等を通して後援を継続していくことが期待される。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合えるように、散歩や簡単な体操、手芸、カラオケを一緒に行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方にも、必要に応じて本人・家族との連絡をとり、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの思いや希望を聞いてみたり、日常の会話や観察の中から真意を汲み取り、意向の把握に努め取り組んでいる。	在籍の長い職員が多く、利用者との関係性が構築されており、意向や趣向の把握がなされている。新しい入居者に対しても少しでも早く生活に馴染めるよう配慮に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人一人のこれまでの生活について、本人、家族等から聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の様子を個別に記録、心身状態、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開き、職員間で話し合い、本人や面会時の家族の意見も取り入れて、介護計画を作成している。	「職員からの意見・家族からの要望の聴取」、「モニタリングの実施」を通してケアプランの策定がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子は個別の記録に記入し、職印間での情報共有をはかりながら、実践・介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の希望を聞き、希望に沿うよう、支援、サービスを行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が出来ることは、やっていただくことで利用者の心身の力を発揮できる暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院へ月に1～2回、定期的に通院し、希望する病院や歯科、眼科への受診の支援も行っている。訪問診療の医師も相談にのってくれたり、3名の看護師も健康管理に当たっている。	経過観察および健康状態の記録が細かになされており、往診時の報告に役立てられている。医療機関と連携を図りながら利用者の健康維持に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、日常で気づいた事を管理者、職員に伝え、利用者が適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療、早期退院が出来るように病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者本人、家族との話し合いを持ち看護師、介護職員が連携を取り、出来る限りの対応をしている。	家族や医療機関との連携に配慮しながら対応に努めている。方針の共有を図ることを課題として捉えており、関係者・関係機関の協力を仰ぎ、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生に備えて、職員に初期対応の指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署による避難訓練を実施している。自治会に加入し、近隣にも災害時の協力をお願いしてある。	災害時の連絡・対応体制等が掲示されており、万一の事態に備えている。火災想定避難訓練も実施されている。	自然災害に対する避難訓練実施を予定しており、実現が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者は、月1回のミーティングで個人情報保護に関することや利用者に対する言動について指導したり、毎日の申し送りのときにも注意し合っている。	特に排せつ・入浴についてはさりげない支援となるよう努めている。マナーに配慮した接遇や声掛けが実践できるよう職員への指導にあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の重い、希望に耳を傾けるように心がけ、お声掛けをするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課はあるが、利用者の体調や一人一人のペースに合わせて、散歩や買い物、手芸、カラオケなどの希望を取り入れて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回の理容師による、整髪を行い、その人らしい身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望、能力を活かして、食事の準備や後片付けを一緒に行っている。利用者は職員と共に会話をもちながら、和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。	ホームの庭にて野菜を栽培しており、収穫期には皆で食している。利用者にとって楽しみとなるよう工夫した食事の提供に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態、習慣に応じて、食事量、栄養バランス等を把握して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、必要に応じて歯科医への通院を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄パターン、習慣を把握して、状況に応じた排泄の支援を行っている。	排せつの記録が細かになされており、利用者一人ひとりの習慣を把握し、支援がなされている。また利用者の自尊心への配慮、便秘への対応等に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため飲食物の工夫、一人一人に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人一人が、週2～3回は、入浴できるように、午前から午後5時頃までの時間帯で、順番やタイミングに配慮しながら、一人ずつゆっくり入浴できるように支援している。	利用者の重度化に伴い、機械浴の導入・手すりの設置等浴室の改築がなされている。新しい浴室に対して職員・利用者共に「慣れ」が必要であり、通常以上に細心の注意をもって業務にあたる意向を示している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が安心して気持ちよく眠れるように、配慮、支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量に注意し、服薬支援、症状の変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や裁縫、大正琴、野菜づくり、花木の手入れなど生活歴や得意とすることが発揮できるように支援することで、利用者の楽しみや張り合いになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は毎日2～3回は散歩に出たり、季節ごとの花見やお弁当を持って公園に出かけたり、外出の機会をもつように支援している。	お弁当をもってお花見にでかけるなど利用者が楽しめる行事を実施している。買い物や外食なども利用者の状態を見ながら取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望、状況に応じて、お金の所持や使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、家族等への電話、手紙のやり取りの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者共用の場で、気分良く過ごせるように室内温度等にも注意をし、季節の花等を飾ったりして工夫をしている。	夏期は、窓の開放・扇風機の使用など風通しを良くし、エアコンだけに頼らない温・湿度管理を実践している。冬期は加湿器の設置や手洗いの励行により感染症の予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場はあまり広くはないが、気の合った利用者同士が過ごせるような雰囲気作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人、家族の希望を取り入れて、使い慣れたものや好みのものを取り入れ、居心地良く過ごせるように努めている。	家族の写真、本、CD、ラジオなど自宅より思い思いの品が持参されている。利用者の意思により自由に休んでもらっているが、リビングにおいて皆で楽しむ機会も大事にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の希望、能力を活かし、出来る事を支援し、楽しみや張り合いのある生活が送れるように努めている。		